

「第8回定時総会」開催される

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)は、5月31日(金)ANAインターコンチネンタルホテル東京において、会長記者会見、第8回定時総会および懇親パーティーを開催した。

同日のスケジュールは以下の通り。

午後4時20分～4時50分	会長記者会見(一般紙/専門紙)
午後5時00分～5時50分	第8回定時総会
午後6時00分～7時30分	懇親パーティー

1. 第8回定時総会

第8回定時総会には正会員89社中の62社の出席を得た。(他、委任状24社)

総会は、大宮会長の挨拶(次業)後、同会長により議事進行がとり進められ、全議案が滞りなく承認可決された。

第8回定時総会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 第1号議案 平成30年度決算の承認について
- 第2号議案 平成31年度会費の承認について
- 第3号議案 理事の補欠選任について



大宮 英明 SJAC会長
三菱重工業(株)
取締役相談役



総会会場

大宮会長所見（第8回定時総会）

新しい時代「令和」最初の「一般社団法人日本航空宇宙工業会第8回定時総会」に際し、会長として所見の一端を述べさせていただきます。

我が国の航空機生産額は、リーマンショックによる落ち込みから緩やかに回復し、近年大きく成長してきました。平成29年度は、民間航空機分野において新事業との端境期に差しかかったことから前年度に対して減少したものの1.7兆円規模を堅持しており、宇宙分野の生産実績3,572億円と合わせた我が国の航空宇宙生産額は、3年続けて2兆円超を達成しました。そして平成30年度も堅調に推移しており、2兆円を超過いたしました。

分野別の動向を見ますと、民間航空機分野では、先ずMRJが、2020年に予定されている初号機納入に向けて、今年3月にTC（型式証明）飛行試験を開始しました。昨年7月のファンボローエアショーにおけるMRJ90の初めての飛行展示が大いに注目されたことはまだ記憶に新しいところですが、YS-11以来半世紀ぶりの国産旅客機が商業運航される日を楽しみにしております。

また、同じく民間機の完成機事業として、ホンダジェットが昨年37機を納入し、小型ジェット機カテゴリーにおいて、2年連続で世界一になったとの報道を嬉しく思います。そして、新型機のホンダジェット・エリートが、昨年4月に米国連邦航空局（FAA）、5月に欧州航空安全機関（EASA）からそれぞれ型式証明を取得したことに続いて、12月には国土交通省航空局から日本における型式証明を取得し、国内においても販売活動が進められております。引き続き、我が国企業の完成機事業がますます発展することを期待いたします。

国際共同開発事業としては、ボーイング社が開発を進めている777Xプログラムがあり、日本の航空機メーカーが主要構造部の約21%に参画しております。昨年2月以降、初号機向け胴体パネルなどの機体部品の出荷が始まっております。この新型機の開発が円滑に進むよう努めてまいります。また、エアバス機にも多くの日本企業が参画しております。日本のメーカーが将来事業においても継続的に重要な部位を担当し、我が国の航空機産業の発展に寄与することを期待いたします。

新型航空機の開発および生産に伴い民間航空エンジン分野においても需要の伸びが期待されております。日本のエンジンメーカーが参画しているエアバスA320neo用エンジンであるPW1100G-JMの生産が本格化しているとともに、ボーイング777X用エンジンのGE9Xにおいても日本企業は低圧タービン部品などを担当しており、昨年3月に実施された当該エンジンの初飛行試験を含めた開発作業に貢献しております。こうした新規事業への継続的な参画によりわが国のエンジン分野が発展することを期待いたします。

防衛分野では、グローバルな安全保障環境は、緊迫した状態が継続しており、昨年末に新しい防衛計画の大綱が策定され、2019～2023年度までの中期防衛力整備計画が示されました。日本の安全保障の観点から、航空宇宙分野において産業界に期待される役割をしっかりと担うべく努めてまいります。

主な防衛事業として、昨年1月に航空自衛隊のF-35A戦闘機の部隊配備が開始されました。一方、将来戦闘機に関しては、一昨年の9月「将来戦闘機国内開発の早期立ち上げに関する要望書」を防衛省に提出してありましたところ、新しい中期防衛力整備計画に「我が国主導の開発に早期に着手」することが織込まれました。防衛装備庁によるX-2先進技術実証機やXF9-1エンジンなどの研究試作を通じて得られた高度な技術の信頼性と運用上の有効性が、将来戦闘機の開発に活かされることを期待いたします。産業界としてはF-2開発経験者が在職している早期のうちに将来戦闘機の開発に着手できることを要望いたします。

戦闘機以外の分野では、C-2輸送機の部隊配備が進められております。そして、P-1固定翼哨戒機と同様に既に海外へも派遣されており、国際的に活躍しております。

また、防衛省の装備品取得の効率化への取組みとしてP-1固定翼哨戒機、SH-60K哨戒用ヘリコプターとUH-60J救難用ヘリコプターの長期契約による一括調達や、F-2戦闘機用F110エンジン維持部品のPBL（Performance Based Logistics）による長期契約などが採用されており、計画的に事業が進められております。

開発事業においては、昨年末、陸上自衛隊 新多用途ヘリコプター（UH-X）の試作機による初飛行に成功しており、開発試作に引き続き、量産機事業が開始される計画です。

これらの事業が、防衛航空機の基盤維持に資することを期待いたします。

宇宙分野では、先ず、昨年6月に金井宣茂 宇宙飛行士が約5ヶ月半にわたる国際宇宙ステーション（ISS）での長期滞在任務を完了し帰還されました。船外活動など多くのミッションにおける活躍を誇らしく思います。このISSの運用は2024年まで延長する方針が示されており、科学技術および宇宙産業の発展に寄与するものと期待いたします。

ロケット打上げ分野では、昨年10月にH-IIAロケット40号機の打上げが成功しました。「このとり」を搭載するH-IIBロケットの全7回打上げ成功と合わせると41回連続の成功であり、約98%の高い成功率を誇っております。

そして、新型H3ロケットの開発も2020年度の初打上げに向け順調に進んでおります。このH3ロケットを使って、英国インマルサット社の通信衛星を2022年以降に打上げることを合意したとの発表が昨年12月にありました。

最新の小型固体ロケットであるイプシロンロケットは今年1月に4号機の打上げが成功しております。今後も打上げにおける高い信頼性をもって、我が国の商業用衛星打上げ・輸送サービスが国際市場において受注を拡大していくことを期待いたします。

衛星分野では、カタルから受注した通信衛星の打上げが昨年11月に成功しております。国内では、準天頂衛星の4機体制による測位サービスが昨年11月1日にスタートいたしました。GPS衛星に加えて準天頂衛星の信号を受信することによりセンチメートル級の高精度な測位が可能となり、利用拡大が一層進められることを期待いたします。

2014年12月に打上げられた「はやぶさ2」は、今年2月に小惑星「リュウグウ」へのタッチダウンを成功させ、4月には人工クレーターの生成にも成功しています。この「はやぶさ2」によるサンプルリターンが楽しみです。

日本のメーカーは高い技術力、品質と競争力のある価格を以って国内外の宇宙事業への参画と貢献に努めております。

宇宙産業への民間事業者の参入を促すため、いわゆる「宇宙活動法」と「衛星リモートセンシング法」による環境整備が進んでおります。また、一昨年5月に「宇宙産業ビジョン2030」が公表されました。宇宙機器産業に宇宙利用産業を加えた宇宙産業全体の規模は現時点で約1.2兆円ですが、このビジョンでは、2030年代早期に倍増を目指すとしております。本ビジョンに示された宇宙産業の今後の方向性を念頭に、宇宙機器産業の課題の解決に向けて努力することが必要です。

さらに、「宇宙システム海外展開タスクフォース」の活動として、海外展示会においてセミナーの開催やB to Bミーティングを行ってビジネスのきっかけ作りを積極的に行っております。このような活動を通じて海外における商業宇宙市場を官民一体となって開拓することにより、我が国宇宙産業の活性化を図っていくことが重要であると考えます。

最後に国際航空宇宙展についてであります。

昨年11月28日から30日の3日間、東京ビッグサイトにおいて「国際航空宇宙展 2018 東京」(JA2018 TOKYO)を開催いたしました。17ヵ国・地域から520社・団体のご出展が得られ、約20,000人の多くの方にご来場いただきました。トレード・情報交換の促進、航空宇宙産業の振興の場としてお役に立てたなら幸いです。

そして、今回の国際航空宇宙展は東京オリンピック・パラリンピックの翌年2021年秋に開催する計画です。わが国航空宇宙産業の情報を発信するとともに、世界的なビジネスを展開する場となるよう準備を進めてまいります。

以上のように、航空宇宙産業は幅広く技術革新を担い、経済を活性化する先端技術産業であり、安全保障にも直結している重要な産業であります。これらのことを肝に銘じ、新しい「令和」の時代においても、航空宇宙産業の更なる発展に努めてまいります。

皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます、会長としての挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

2. 定例会長記者会見

(一社) 日本航空宇宙工業会は、第8回定時総会に先立ち、一般紙・専門紙への定例記者会見を開催した。大宮会長の挨拶（後掲）の後、活発な質疑が行われた。

[時間：16：20～16：50、於「ギャラクシーⅢ」]

(1) 出席者

新聞社・報道機関：日本経済新聞社、朝日新聞社、日経ビジネス、時事通信社、ウイング、防衛通信社、軍事研究、イカロス出版、航空情報、航空ファン、航空関係ジャーナリスト（10社+ジャーナリスト、17名）

当工業会出席者：大宮会長

[事務局] 今清水専務理事、高辻常務理事、山北常務理事、他関係者

(2) 配布資料 第8回定時総会大宮会長所見、平成30年度航空機生産額（速報値）、平成30年度宇宙機器産業の売上高見込み



大宮会長



記者会見会場

3. 懇親パーティー

(一社) 日本航空宇宙工業会は、第8回定時総会終了後、恒例の懇親パーティーを開催した。当日は、関係官庁、国会議員、学識者、在日外国企業、報道関係者ならびに会員企業等、幅広い方面から約660名の方々にご参集をいただいた。

パーティーは冒頭、大宮長の挨拶に引き続き、ご来賓の方々（下記）よりご祝辞をいただいた後、寺本副会長による乾杯の音頭によって始められ、和やかに懇談に入った。

ご 来 賓



関 芳弘
経済産業副大臣



原田 憲治
防衛副大臣



柴山 昌彦
文部科学大臣



平井 卓也
内閣府特命担当大臣



左から若宮議員、中山議員、柴山大臣、
大宮会長、原田副大臣、関副大臣、和田議員



左から
JAXA山川理事長、平井大臣、大宮会長

パーティー会場の様子

懇親パーティー会長挨拶

本日はご多用中にもかかわらず、関係官庁の政務三役・幹部ならびに国会議員の皆様方を始め、関係各位に多数のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また皆さまには、日頃より我が国航空宇宙産業の発展について、ご理解と格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。パーティーの開会にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

我が国の航空産業の生産高は、平成30年度に1兆8384億円と過去最大になりました。また宇宙産業の売上高は3638億円を見込んでおり、航空宇宙産業全体として引き続き2兆円を上回っていることは、大変喜ばしいことです。

先ず、民間分野では、ボーイング777Xプログラムへの参画、PW1100G-JMエンジンの量産開始など、国際共同開発の主要パートナーとして、日本のポジションは順調に高まってきました。MRJは、型式証明取得のための飛行試験が本格化し、来年の初号機納入に向けて鋭意開発が進められております。小型ジェット機部門で出荷数世界一のホンダジェットとあわせて、我が国の完成機ビジネスの発展に期待が膨らみます。

防衛分野では、新中期防で、将来戦闘機について「国際協力を視野に、我が国主導の開発に早期に着手」することが示されたことはたいへん喜ばしいことです。また将来戦闘機用エンジンの開発も順調に進んでおりますし、新多用途ヘリコプターは、防衛省による試作機の飛行試験が開始されました。当工業会は、国の安全保障政策に協力するため、引き続き、防衛省や経済産業省をはじめとする関係当局と連携しつつ、国際的な防衛産業間対話などを進め、最新技術の獲得や防衛生産・技術基盤の維持・強化に努めてまいります。

宇宙分野では政府の「宇宙ビジョン2030」において、2030年代早期には、宇宙利用産業も含めた宇宙産業全体の市場規模の倍増を目指すと言われております。当工業会は「海外展開タスクフォース」に参加し、官民一体となって、海外市場における打上サービス、衛星の受注および利用産業の創出と拡大に注力しております。

昨年11月に開催された国際航空宇宙展「JA2018 TOKYO」では、38の国・地域から、520社・団体の出展と2万7458名の来場をいただき、お陰様をもちまして、たいへん盛況のうちに終えることができました。この場をお借りして、皆様に御礼を申し上げます。今回は再来年、「JA2021」を同じく東京ビッグサイトで開催する予定です。会員企業をはじめ多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

以上、当工業会は、我が国の航空宇宙産業の更なる発展に向け、諸事業を推進してまいります。皆様方におかれましては、一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

以上